

## 質問の解答例

各章にある問題の解答例を示します。

- T1章 時と局面 (86)
- T2章 事象と局面表示 (94)
- T3章 絶対時と相対時 (98)
- T4章 4種類の時間表現 (103)
- T5章 時間の否定 (105)

この解答例の作成にあたっては次の方々の協力を得ました。

(敬称略・五十音順)

- 大石有香 (たけし日本語学校・特定非営利活動法人IFE)
- 木村泰介 (コンピュータ関連企業勤務)
- 蔣家義 (中国・浙江工業大学外国語学院・特任准教授)
- 閻口美緒 (筑波大学・非常勤講師・学術博士)
- 孫偉 (中国・首都師範大学外国語学院日本語学科・副教授)
- 陶天龍 (東京外国語大学・学生・漢字教育士)
- 董昭君 (中国・安徽理工大学外国語学院・講師)

## T1章 時と局面

## 解答例

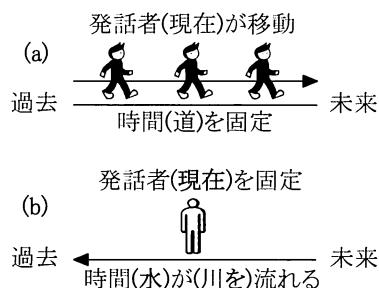
## 答T1-1

(a) の右向きの矢印は発話者が未来へ向かって(道を)進むことを意味しており、現在が時間軸を移動することを表します。

(b) の左向きの矢印は発話者(現在)が固定されていて、時間が(川を)流れることを表します。

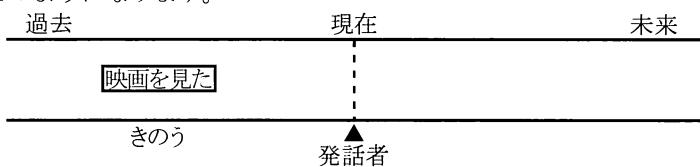
(a)も(b)も時間が進む同一現象を捉えています。

日本語構造伝達文法は両者をモデルとして使用しています。



## 答T1-2

このようになります。



## 答T1-3

はい、現代日本語では動詞の「現在」は「存在」の形で表現します。

(1)存在動詞 いまある。 いまいる。

(2)静態動詞 いまそう思う(思っている)。いま見える(見えている)。

(3)動態動詞 いま読んでいる。 いま開けてある。

(3)動態動詞は「いま読む」というと(直近)未来になります。「現在」を表すためには「ている」をつけて、主語が「事象開始後」に存在しているという意味にしなければなりません。つまり「存在の形」にします。

(1)存在動詞はもともと「存在」を表しますので現在で使用できます。

(2)静態動詞は感覚等の「存在」を表すので、そのまま現在が表せます。感覚等を「動き」として捉えるときは「ている」で存在の形にします。

## 答T1-4

次の1,2,4,5のØは他属性連続描写詞(連用形)-iのゼロ化したもので、3,6のØは基本描写詞(終止形)-uのゼロ化したもので、

$\begin{matrix} -i=te-\emptyset & =i-ru \\ 1 & \end{matrix}$  (ている),  $\begin{matrix} -i=t-\emptyset & =a-\emptyset \\ 2 & 3 \end{matrix}$  (た),  $\begin{matrix} -\emptyset=t-\emptyset & =a-\emptyset \\ 4 & 5 \end{matrix}$  (た)

T1.5のタの項の構造図とS1.13の動詞活用表を参照してください。

**答T1-5** テイルは局面②④⑥で使えますので、事象開始後から事象の生起したことを忘れるまで使えます。

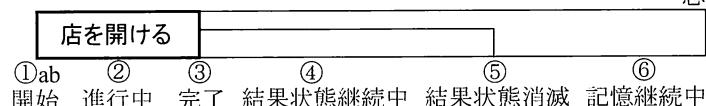
**答T1-6** テイルは局面②の「進行中」を表せますので、そう言うことは可能です。しかし正確には、「進行中」を表すほかに「結果状態継続中」(局面④)や「記憶継続中」(局面⑥)も表す、と言う必要があります。

**答T1-7** 「落ちる」はふつうごく短時間で終了しますので、局面②を捉えることはほとんどありません。一方、落ちた後の結果状態継続中(局面④)は容易に捉えられます。それで、局面④を表すことが多いわけです。

**答T1-8** このシテイルは局面⑥を表しています。事象（父が当時ロシア語を勉強した）が生起したことの記憶が現在あることを表しています。（その記憶は伝聞によるものである場合もあります。）

**答T1-9** 次のように6つの局面があります。

忘却



- ①[開始] シャッターに手をかけて店を開ける／b開けた。
- ②[進行中] 立て看板を出したりしながら店を開けている。
- ③[完了] ひとつおりの手順で店を開けた。
- ④[結果状態継続中] 雨で客は少ないが店を開けている。
- ⑤[結果状態消滅] 今まで店を開けていた。
- ⑥[記憶継続中] きのうは店を開けている。

**答T1-10** ②[進行中] いま、サークルのみんなとお酒飲んで(いる)。  
 ④[結果状態継続中] あっ、この倒れてる人、お酒飲んで(いる)。  
 ⑥[記憶継続中] あの日は、二次会でお酒飲んで(いる)。

**答T1-11** 「この本読んだ？」は事象が生起したかどうかを聞いています。「うん、読んだ。」なら誤解を招きませんが、「うん、読んでる。」だとあいまいです。②のつもりなら「読んでいる最中」だし、④のつもりなら「読んで知識が頭にある」で、⑥のつもりなら「昔読んだことがある」の意味。

答T1-12

「前を走っている」は 走っている  ②進行中

事象「走る」の局面②を進行

中として表現したもので、

走る

◎事象

「前を走る」は事象「走る」を

時と相で捉えずに、属性面を重視して表現したものです(T4.1(4))。

「前を走っている」の表す局面が④⑥どちらでもなく、②である場合に、この両者は同じ意味だといえます。

答T1-13

最も長い事象は、始めも終りも認識できない「宇宙の創造者がいる」という事象です。短い方は、生から死への瞬間的移行である「死ぬ」で、これは①と③が同時に生起しますので②がありません。(T2章参照)

答T1-14

この文法で使う「事象」の定義は表T1-2 のとおりです。これによれば、「出来事」や「動作」は「事象」の1つであるといえます。

答T1-15

「読む」にかかる時間の長さは、「読む」対象によってさまざまです。

- (1) 案内板の「順路→」を読むのは一瞬です。
- (2) 結婚式の招待状なら数秒から数分でしょうか。
- (3) 新聞の場合は、数分から数十分でしょうか。
- (4) 『源氏物語』なら数ヶ月でしょうか。

答T1-16

人によりさまざまだと思いますが、図T1-20 のように表示してみてもよいでしょう。その上で、1日に発話する文のそれぞれについて時相を分析してみると、日常の時相のあり方を詳細に知ることができます。

答T1-17

[現在・進行中]は「している s-i-te-Ø=i-ru」と「is doing」のように、両者とも主語の存在の形にします。日本語では主語の動作開始後の存在を表します(進行中だけでなく忘却まで)。英語では開始以前からの主語の予定的存在も表しますが、事象が完了するまでしか表しません。

I'm meeting Peter. (会うことになっている／会っている)

シテイルの示せる領域

開始	進行中	完了	結果状態	状態消滅	記憶
----	-----	----	------	------	----



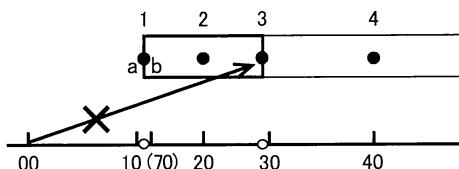
is doing の示せる領域

答T1-18

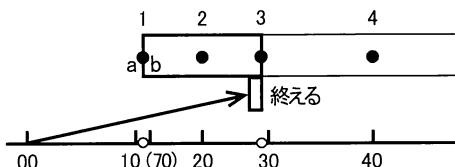
局面⑤は結果状態の消滅時点です。「着ている」のように結果状態が見えるものは消滅がはっきりしていて把握しやすいですが、「脱ぐ」という別の動詞を使います。「座っている」も「立つ」という動詞になります。「ご飯を食べている」は局面⑤はお腹がすいた時点ですが、この時点は(視覚で)特定できません。……局面⑤は別の動詞を使うことや、時点として特定できないことから、その動詞では表現しにくいわけです。

答T1-19

[未来・完了]は[03]ですが、これは日本語では表現できません。(「明日レポートを書いた」と言えません。)

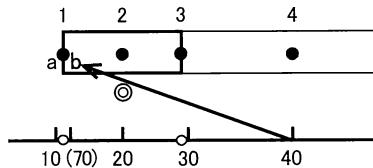


それで、完了を表す補助的な動詞「終える」を使います。

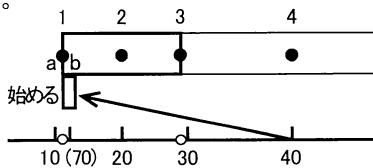


これなら「明日レポートを書き終える」と表現できます。

また、[過去・開始]はたとえば[41b]です。「月曜日にレポートを書いた」と言えますが、これは[43](完了)や[4 ⑦]で解釈されやすいです。



これを避けるために、開始を表す補助的な動詞「始める」を使います。そうすれば、「月曜日にレポートを書き始めた」のように明確に「開始」を表現することができます。



**答T1-20** 2桁時相図は、事象のありうるすべての局面と発話時点を抽象化して示していますので、発話時点がいつで、言及局面がどこなのかを2桁数だけで表現できます。つまり、こまごました状況説明などをしなくとも、的確にかつ簡単に時間関係を示せるのが利点です(pp.16-17)。

**答T1-21** [02]の例 明日の午前中にせりふを覚えています。

[24]の例 午後にはせりふを全部覚えています。(今、午前に記憶中)

[64]の例 当日は午後にせりふを全部覚えていました。

[6 ⑦]の例 当日は午前中にせりふを全部覚えました。

**答T1-22** [33]はたとえば「着た」ですが、これは日本語では、「完了」の瞬間を捉えているのではなく、着たあの状況、直近過去を表現しているものを感じられます。「書いた／食べた／作った」など、ほかの動詞も同じで、日本語では完了の瞬間を現在として表現する方法を持たないで、[33]は正確な現在としての完了にならないのだと考えられます。

**答T1-23** 「タイ人だった」と過去形で言いましたが、その人は現在もタイ人です。会った経験が過去だったのでタで表現しました。一方、「3人だった」は、恒常に3人ではなく、会ったときだけ3人でした。

後者はふつうの「過去」ですが、前者は「経験過去」とよばれます。

**答T1-24** [22']の例 さっきもテニスをしていました。(いまも継続中)

[22'']の例 1時間後もテニスをしています。(継続の予定)

**答T1-25** [06] 「来年は卒業している。」のように、事象(卒業)生起以前の時点 [00]で、未来での事象生起の記憶の存在[6]を表現しています。

[26] 「来月は中華料理をもう食べているから、和食にしよう。」のように、事象(中華料理を食べる)の生起中の時点[20]で、未来での事象生起の記憶の存在[6]を表現しています。

[46] 「次回は、通路側の席には座っているから、窓側の席を取る。」のように、事象(通路側の席に座る)生起の結果状態の時点[40]で未来での事象生起の記憶の存在[6]を表現しています。

[66''] 「来週は、赤いのはもう買っているので、白いのにしよう。」のように事象(赤いのを買う)生起の記憶継続中の時点[60]で未来での事象生起の記憶の存在[6]を表現しています。

未来の記憶の存在を表すことは同じですが、発話時点が異なります。

答T1-26 ふつうは、[ 64 ]になります。

答T1-27 開始の場合は、車窓から「あっ、富士山が見えた。」と言うような場合で、言った後も引き続き見えています。このとき「た」は見えなかつた状況から見え始めた状況へと局面が変わったことを表しています。

完了の場合は、たとえば「美しい富士山がよく見えた。」と言うような場合です。「た」は、ずっと見えていた状況から見えなくなつた状況へと局面が変化したことを表しています。

「た」は局面の変化を表しますので、「開始」も「完了」も表現します。

答T1-28 図T1-47は「彼が資料を読んである」の構造です。構造は異なりますが「資料が読んである」とも言えます。その場合は複主体構造です。

彼の1は資料が読んである。

構造図は図S2-33～-35を参照してください。

答T1-29 たとえば友人が私にあるビデオを見るべきかどうかについて相談していて、後日、その友人が部屋でそのビデオを見ているのを発見しました。このとき、友人が「見ることをちゅうちょしている」状況から「見ることに決めた」状況へと局面が変化したことに私は気がつきました。「見たね」と言ったのは、その意識局面の変化をタで表現したものです。

答T1-30 「あっ、森さんはここにいる。」というのは単に状況を報告しているだけですが、「あっ、森さんはここにいた。」というのは、「今までどこにいるか分からなかったけど、いまは居場所が分かった」というふうに、発話者の意識の中で局面変化が生じたことを表現しています。

答T1-31 「明日は祭日である。」と言えば事実を表現しているだけですが、「明日は祭日だった。」と言えば、発話者の心理において、「今まで忘れていたが、いま祭日であることを思い出した」という意識内の局面変化が起こったことを表す表現になっています。

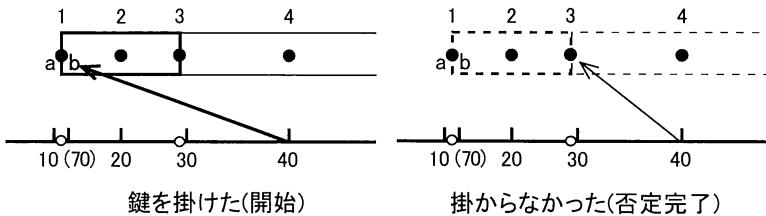
答T1-32 「た」は局面変化が認知されたことを表現しますので、バスが見えた局面で「バスが来た」と言えます。目前に到着していないくとも言えます。

また、「勝った！」も、勝利が実現する前に、意識の中で勝利が確信できた段階で(意識局面が変化した段階で)言うことができます。

事象そのものの局面変化や、意識内の局面変化を「た」が表現します。

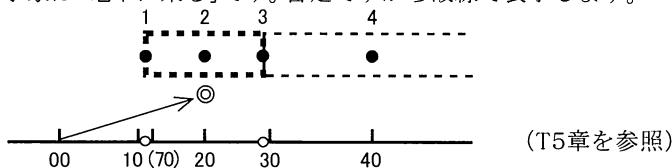
答T1-33

「鍵を掛けた」は[41b]で「開始」、つまり「鍵を掛け始めた」を表現しています(左図)。「掛からなかつた」は「掛かる」という動詞の否定の完了[否 43]を表現しています(右図)。「鍵を掛け始めたけど、掛からないで完了した」の意味です。動詞は「掛ける／掛かる」の2つあります。



答T1-34

事象は「電車に乗る」です。否定ですから破線で表示します。



答T1-35

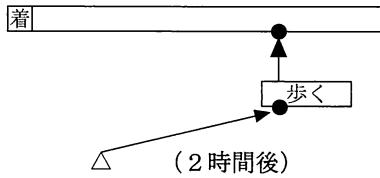
T5.5 (pp.80-81) を参照してください。

答T1-36

事象は2つです。

- ・(白衣を)着る
- ・(人と)歩く

両事象の時間関係は右図の  
ようになります。



答T1-37

命令を表すには連用形か命令形を使用しますので、「待つ mat-」は「ちょい待ち mat-i」「ちょっと待て mat-e」のようになります。これに完了の気持ちを入れるとときはタを付けて次のようにになります。

$\text{mat-i=t-Ø=ar-i}$  (まつたり)       $\text{mat-i=t-Ø=ar-e}$  (まつたれ)

ここから「り」や「れ」が省略されて「まつた」になります。(p.24 上部参照)

「待って」の場合は「待ってください／待ってちょうどいい」の「ください／ちょうどいい」が省略されたものです。このように「要望」を表す「ください／ちょうどいい」は省略されますが、ほかの「てあげます／てもらいます／ておきます」などは省略されませんので、「ーて」はあたかも「要望」を表すものであるかのように感じられます。

**答T1-38** 「人だかりがある。」は発話時点から見て過去のことなのに現在として表現していますから、過去に設定した「設定現在」です。「皆笑っている。」も同じです。

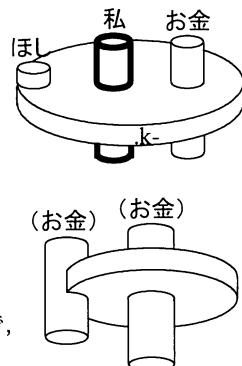
**答T1-39** 『待っていますよ。』は引用文中の現在ですから、「録画内現在」です。

**答T1-40** 「未来の公園」が公園の愛称的なもので眼前にあれば、そして実際に眼前で人々がセグウェイに乗っているのであれば、「絶対現在」です。  
「未来の公園」や「セグウェイに乗っている人」が眼前に存在せず、思念の中にあるだけの場合は、未来に設定した「設定現在」です。

**答T1-41** 格(動詞との論理関係)を持つので「語」ですが、格詞は省略されています。格は多様です。

- ・「お金(がほしい)！」………「帯感主格」
- ・「お金(が落ちてる)！」………「主格」
- ・「お金(をちょうどい)！」………所有移動の「を格」
- ・「お金(でいい)！」………妥当性を表す「で格」
- ・「お金(に換えて)！」………結果物を表す「に格」
- ・「(答えは)お金(です)！」………存在様態の「で格」

ただし、「お金 o=kane-」はみかけの詞なので、「お金！」は正確には「みかけの語」です。



**答T1-42** 右図は「(彼の1は)学生であります」の構造図です。

学生-de=ar-i=mas-u

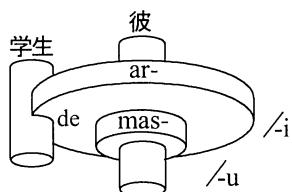
「学生-de」は名詞語で、「ar-i」は動詞語、「=mas-」は助動詞です。

「-de=ar-i=mas-u」はみかけの詞ということになります。これを省略して読むと「です」になります。

学生-de=(ar-i=ma)s-u

学生-de=s-u

「です -de=s-u」もみかけの詞です。ただし、常にその組合せであたかも1つの要素であるかのように文法的に機能するものを『基』といいますので、「であります」や「です」は基でもあります。「である」「だ」と同様、「断定基」とよびます。(S1.7)



## T2章 事象と局面表示

## 解答例

答T2-1

「泳ぐ」は、クロールの場合、次の要素が考えられます。

一方の腕で水をかく－同時に両足の甲で水を打つ

－他方の腕で水をかく－同時に両足の甲で水を打つ－息をする  
この一連の動作をくり返します。

答T2-2

「手術をする」は医師と患者では要素が異なります。

医師 メスで切り開く－患部を切除・摘出する

－必要な処置をする－切開部を閉じる

患者 メスで切り開かれる－患部を切除・摘出される

－必要な処置を受ける－切開部を閉じられる

「田中さんは明日手術をする」という表現では、田中さんが医師の場合と患者の場合とでは意味が異なります。

答T2-3

日本語動詞は「存在の形（－テイル）」で「現在」を表しますが、「いる／ある」はすでに存在を表しているので、「－ている／－である」の存在の形にしなくとも「現在」が表せるからです。

また「思う／考える」等の静態動詞で、心理の「存在」が表現されている場合は「－ている」の存在の形にしません（そう思う）。「動作性」が表現される場合には「－ている」の存在の形にします（そう思っている）。

答T2-4

「踊る」は、一定の所作のくり返しを行いますので、事象5です。

「泣く」は、心理の一定時間の継続とみれば、事象3です。

「開ける」は、手順に従って1回的にする動作ですので、事象4です。

「5時を過ぎる」は、瞬間的移行として生起しますので、事象2です。

答T2-5

「話す」は事象3としては「経済について話す」が例となります。ほかに事象4としては「議長に彼が出席することを話す」が例示でき、事象5としては「彼は彼女と話す」（話一聞のくり返し）が例示できます。事象6としては「会うといつもその問題について話す」が例示できます。

答T2-6

「たたく」は事象4では、ドンと1回だけたたくことになり、事象5ではドンドンドン……と何回もたたくことになります。したがって「たたいている」といえるのは、ふつうは事象5のほうです。

**答T2-7** 「知る」は「知らない状況から知った状況への移行」として捉えますので、「死ぬ」と同様の扱いになります。したがって、「知っている」は事象2の局面④であると考えられます。

**答T2-8** 「車を運転する」では、運転の開始と終了の間に変則的にくり返しが行われます。変則的ですがくり返しなので、事象5の一種です。

(キーを入れてエンジンをかける<開始>)

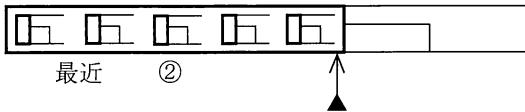
—アクセルを踏む—進む—ハンドルで方向を変える

—アクセルを踏む—進む—ブレーキを踏む—止まる

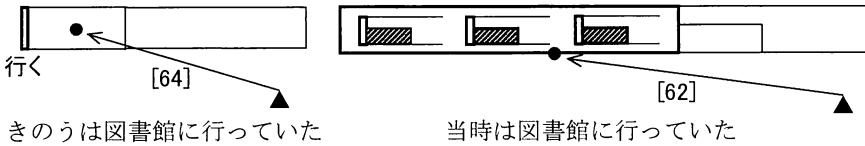
→ このようなことを適宜くり返します。

(ブレーキを踏んで止める—キーを抜く<終了>)

**答T2-9** 「ウグイスが鳴く」は「ホーホケキョ」が1回だけの場合は事象4で、くり返される場合は事象5です。「最近よく鳴いている」ですから毎日のように、また頻繁にこれが生じています。つまり、事象6として図示でき、中の基本事象は(事象4か)事象5となります。



**答T2-10** 「行く」は到着地への未到着から到着後の移行を表しますので、事象2の扱いになります。このときの「行っている」は結果状態継続中④を表します。「当時……行っていた」では、過去のくり返しを表します。



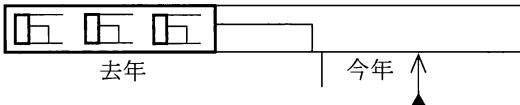
**答T2-11** 「売る」は事象4と事象5では構成要素が異なります。

事象4 代金を受けとる—商品を渡す

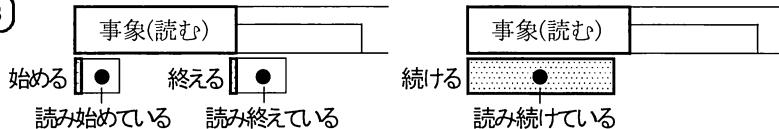
事象5 客の来訪を待つ—客が来訪する—代金を受けとる  
—商品を渡す (これのくり返し)

したがって局面②の「売っている」は、事象4では代金と商品の1回的な交換事象の進行中となり、事象5では「客の来訪を待つ」要素が加わってのくり返しの進行中となります。

答T2-12

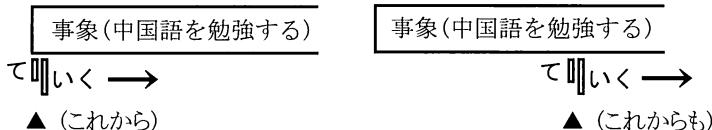


答T2-13



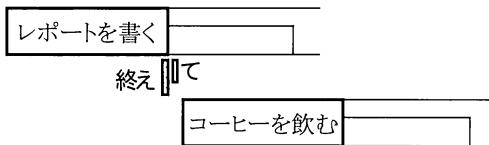
答T2-14

「これから」は「これから始める」の意味で、「これからも」は「いままでと同じように」の意味ですから、次のような図示になります。



答T2-15

「レポートを書き終えて、コーヒーを飲む」はこう図示できます。

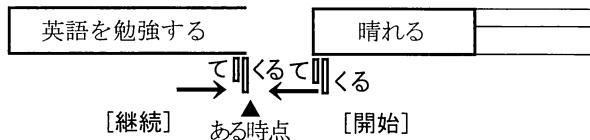


答T2-16

「来る」はある物が発話者の領域に向かって移動することを表します。



これを含む「ーてくる」の表現は、動詞の表す事象がある時点に向かって接近することを意味します。過去から接近する場合は「英語を勉強してきた」のように「過去から行われていたことの継続」を意味し、未来から接近する場合は「晴れてくる」のように「これから生起する事象の開始」を意味することになります。



答T2-17

Aに従う

→ て~~いく~~くる

Bに従う

て~~くる~~いく →

▲ (その時点)

▲ 発話時点

答T2-18

「てしまう」は完了に伴う、たとえば次のような心理を表現します。

- ★決意 「レポートは今日中に仕上げてしまう。」
  - ★予期外 「安かったので買っててしまった。」
  - ★残念 「金メダルではなく、銅メダルになってしまった。」
  - ★不都合 「そのことがみんなに知られてしまった。」
  - ★非難 「彼は公金を着服してしまった。」
  - ★うしろめたさ 「拾ったお金を財布に入れてしまった。」
  - ★自慢 「3日で30万も稼いでしまった。」
  - ★満足 「彼のおかげで予定より1日はやく終わってしまった。」
- 同じ文でも発話者の感じ方で、どれであるかは変わります。

答T2-19

「かぶっている」と「かぶった」が共に局面④を表していると感じられる場合に同じ意味になります。詳細はp.22をご覧ください。

「ている」は局面②④⑥を表す一方、この「た」は局面④しか表しませんので、「ている」が局面④を状態の1つであるものとして捉え、「た」が局面④を属性として捉える、と言うこともできます。

答T2-20

自動詞でも、準備完了を表す場合に可能なことがあります。

- 「もう十分に泣いてある。(だから、人前で泣かなくても済む。)」
- 「セグウェイには1度乗ってある。」(だから、次は問題なく乗れる。)
- 「このルートは走ってある。」(だから、だいたい分かっている。)
- 「苦労する」を(みかけの)自動詞とみれば、次も例になります。
- 「十分苦労してあるからこの苦境には耐えられる。」

ちなみにいえば、次のような場合の「ある」はここで扱っている補助的な動詞ではありません。存在を表す本動詞であり、「有る・在る」のように漢字で表記できるもので、「ある」だけでも意味が通じます。  
「岬には記念碑が(建って)ある。」

## T3章 絶対時と相対時

## 解答例

答T3-1

「乗った」を相対時表現と感じるからです。

過去 \_\_\_\_\_ 現在 \_\_\_\_\_ 未来

従属節→

乗

タ

主文→

買

タ

発話時点

答T3-2

はい。絶対時の「乗った」であれば複数の可能性があります。これは、絶対時では2つの事象の先後関係は問題にならないからです。

過去

現在

過去

現在

乗

タ

買

タ

乗

タ

買

タ

発話時点

発話時点

(電車に) 乗るまえに切符を買ったことになるのは右側の図です。

答T3-3

従属節です。上の2問の解答図から分かるように、主文は常に絶対時表示ですが、従属節には絶対時表示と相対時表示があります。

答T3-4

「絶対時a」は主文の絶対時で、「絶対時b」は従属節の絶対時です。絶対時ですから、発話時点が基準点になっています。

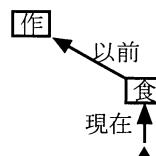
答T3-5

「山に登る人が歌った。」の「登る」には3とおりの可能性があります。  
 過去にある「登」…その人がすでに山に登ったことを意味しています。  
 現在にある「登」…その人がいま山に登っていることを意味しています。  
 未来にある「登」…その人がこれから山に登ることを意味しています。

答T3-6

右図のようになります。

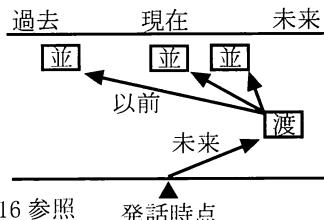
「彼が牛丼を作った」事象が先に生起し、  
 「食べる」事象が発話時点で生起中です。



答T3-7

「列に並んだ人に整理券を渡します。」は右図のようになります。  
 「並ぶ」には次の3つあります。

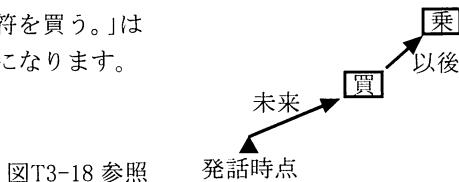
- ★既に並んでいる
- ★いま並びつつある
- ★これから並ぶ



図T3-16 参照

答T3-8

「電車に乗る人が切符を買う。」は一般的には右図のようになります。



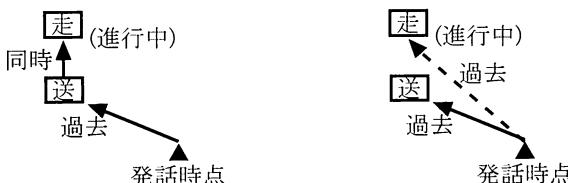
図T3-18 参照

答T3-9

「走っている選手に声援を送った。」は左図のようになります。  
 「走っている」の部分は相対時表現(同時・進行中)です。

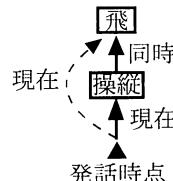
答T3-10

「走っていた選手に声援を送った。」は右図のようになります。  
 「走っていた」の部分は絶対時表現(過去・進行中)です。



答T3-11

「あの飛んでいるドローンは彼が操縦している。」は右図のようになります。「飛ぶ」は絶対時表示でも、相対時表示でも同じ「飛んでいる」という形になります。



答T3-12

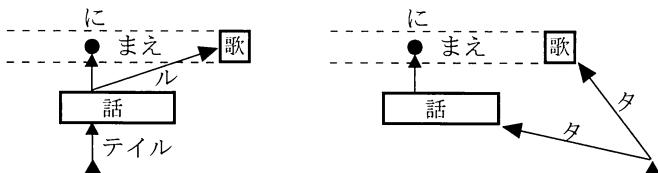
左図では運転する前に渡し、右図では運転を始めてから渡します。



答T3-13

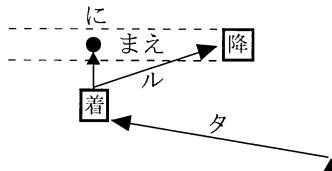
「彼が歌うまえに私が話している。」は左図で、「歌う」は相対時表示ですが、絶対時の可能性もあります。「彼が歌ったまえに」は右図で、「歌う」は絶対時表示です。ふつうは「歌うまえに」と相対時表示にします。

答T3-14



答T3-15

右図のようになります。  
（「降る」を絶対時表示にすると  
「降ったまえに」となりますが、  
ふつうはこう言いません。）



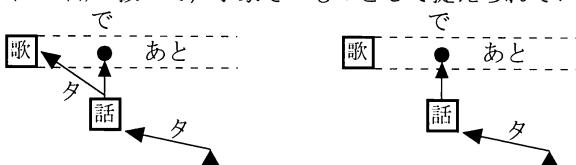
答T3-16

「彼が歌ったあとで私が話した。」は左図のようになります。

「彼が歌うあとで私が話した。」は右図のようになりますが、「歌う」

答T3-17

が無時相(T4.1(4))の扱いで、事象そのものとして捉えられています。



答T3-18

「では」は「にして(にありて)」より生まれた格詞なので、既に存在の意味があります（「ではにありて」）。それで、「で」のあとに物体の存在の「ある」は使いません。下表の□内は行為・出来事等を表します。

問T3-18に対する答えは(3)と(4)の違います。

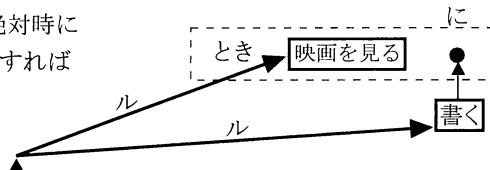
時間	まえ	(1) に 時間近接の一点	式のまえにある・する
		(2) で 時間的広範囲	(使用せず)
あと		(3) に 時間近接の一点	式のあとにある・する
		(4) で 時間的広範囲	式のあとである・する
空間	まえ	(5) に 存在	記念碑のまえにある・する
		(6) で 活動	記念碑のまえである・する
うしろ		(7) に 存在	建物のうしろにある・する
		(8) で 範囲	建物のうしろである・する

## T解答例

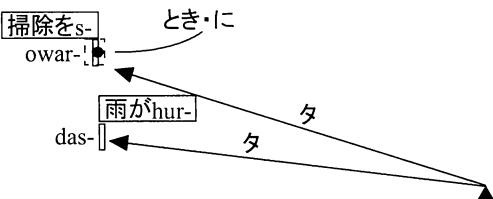
答T3-19 「山に登る人が歌う」は、従属節(山に登る)がル、主文(人が歌う)がルになっています。このとき従属節は絶対テンス(絶対時)でしょうか。確かに左図では絶対時ですが、同じ文が右図では相対時になっています。絶対・相対両方可能です。したがってこの説は正しくありません。



答T3-20 「映画を見るとき」は絶対時になっています。相対時にすれば「映画を見たとき」になります。

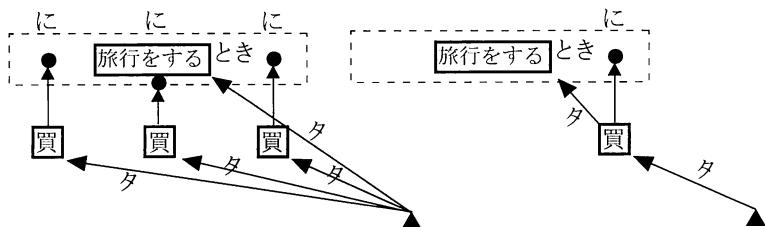


答T3-21 「終わる」も「だす」も局面表示を補助する動詞です。  
「終わった」は相対時表示でも同じ形です。



答T3-22 「北欧旅行をしたときに、この本を買った。」

時間領域を表す「とき」を使用する場合、「旅行をした」の「た」は、ふつう絶対時表現なので下の左図のようになります。「旅行まえに」買った可能性も、「旅行中に」買った可能性も、「旅行後に」買った可能性もあります。

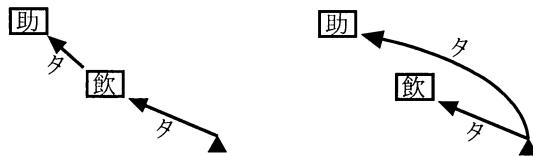


「旅行をした」の「た」が相対時表現の場合は上の右図のように「旅行後」に買ったことになります。

答T3-23

「その事故で助かった人はここで水を飲んだ。」

助かった後で水を飲んだ、という解釈が一般的だと思われますので、次のような図示になります。相対時でも絶対時でも表現は同じです。

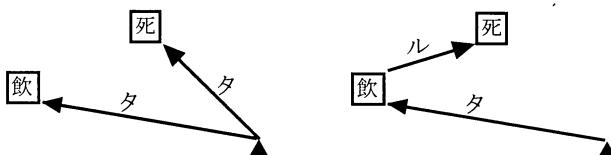


答T3-24

「その事故で死んだ人はここで水を飲んだ。」

死ぬまえに水を飲んだ、としか解釈できませんので、下の左図のような絶対時の図示になります。これを相対時にすれば右図のようになります。表現は次のように変化します。

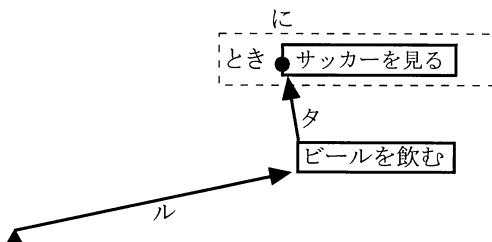
「その事故で死ぬ人はここで水を飲んだ。」



答T3-25

「このビールはこんどサッカーを見たときに飲みます。」

「見たとき」の「見た」は開始bで、開始後を相対時で捉えたものであり、下のような図示になります。



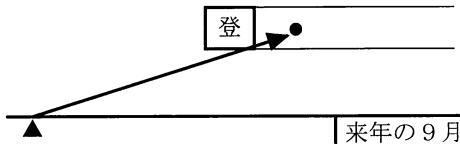
もし、開始aで捉えるなら、絶対時表示(未来)になり、「このビールはこんどサッカーを見るとときに飲みます。」になります。

## T4章 4種類の時間表現

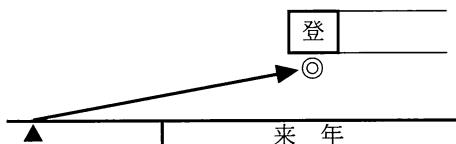
## 解答例

答T4-1 来年の9月よりまえに、富士山に登った後の状況になっていますから、こう図示できます。

局面④か⑥

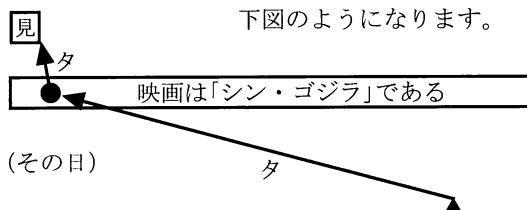


答T4-2 このような図示になります。



答T4-3

下図のようになります。



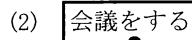
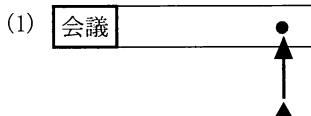
「シン・ゴジラだった」は経験過去(問T1-23 参照)なので、映画の題名にはいまも変化がなく、「現在」で表現することもでき、「彼が見た映画はシン・ゴジラだ／である」となります。

答T4-4

もちろん「していた」と言えますが、「している」になっている理由として、2つのことが考えられます。

- (1) 局面④か⑥として表現しているから。
- (2) 「おととい」と言っていて、過去であることがはっきりしているので、「進行中の相」だけを表現したから。

局面④か⑥



答T4-5

過去のことを言っているのに「やせていた」になっていないのは、過去であることは自明のことなので、時表現をはずして、相表現だけにしたからです。写真を見ているときなどの表現です。(もちろん、「やせていた」と言うこともできます。)



「やせている」は修辞的事象の局面④と考えられます(p.33 事象2)。

答T4-6

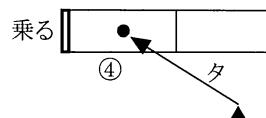
「走る」が相対時・進行中表現なら

前を走っている車



「走る」が絶対時・進行中表現なら

前を走っていた車



になります。問題の文では同じ状況を

無時相で「事実」として表現しています。

前を走る車 (右図)

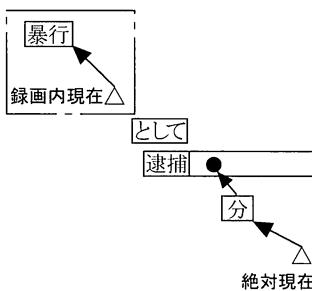
前を走る車に犬が乗っていた

答T4-7

記録などでは、過去の事象であることは自明なので、過去であるとの表現は必要ありません。また、相も表現する必要のないときは「事象の成立」だけを表現すればよいので、無時相の表現になります。

答T4-8

<[タクシー運転手に暴行した]として、警視庁が男Aを暴行の疑いで現行犯逮捕していた>ことが同庁への取材でわかった。



「暴行した」

疑似絶対テ ns(時のみ: 疑似過去)

「として」

絶対テ ns(過去・開始以後)

「逮捕されていた」

相対テ ns(以前・結果状態)

絶対テ ns(過去・結果状態)も可

「分かつた」

絶対テ ns(時のみ: 過去)

「として」は「とする」(判定する)の開始以後の時間領域を示します。

その前の「タクシー運転手に暴行した」は引用です。引用中の「現在」

は「録画内現在」なので、言及線は疑似絶対テ nsです(p.73 参照)。

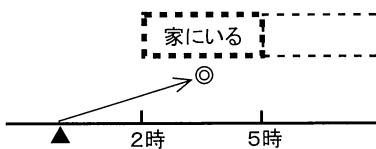
(ただし、「絶対現在」を基準点とする絶対テ nsでも扱えます。)

## T5章 時間の否定

## 解答例

答T5-1 「私は2時から5時まで家にいません。」

## 時間の図示

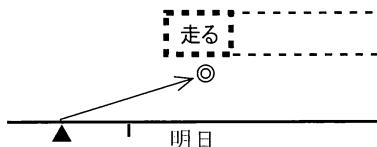


## 空間の図示



答T5-2 「私は明日走りません。」

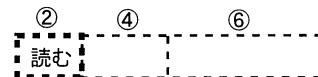
## 時間図



## 2桁数字

[否 0 ◎]

答T5-3 「『雪国』は読んでいない。」



局面② 「読む」ことが現在(進行してい)ない。

局面④ 「読む」ことがなかったから、その結果がない。(知識がない)

局面⑥ 「読む」ことがなかったという記憶がある。

答T5-4

「飲みましたか」という質問は、過去についての質問であることが明確です。「飲みませんでした」と答えればよいわけですが、長くなりますが、過去のことであることがはっきりしていますので、省略しやすい「でした」を省略して短く「飲みません」としても、未来のことであると誤解されません。

つまり、質問の中に時の情報が入っていますので、答えではその情報を生かして、長いものを省力してもよいわけです。

「飲んだ?」の場合も同様で、「飲まなかった」と答えずに、時の情報を生かして、否定の要素だけにして、短く「飲まない」と答えることもあります。

一方、肯定の答えは長くならないで省力は行われません。

「飲みましたか?」 — 「はい、飲みました。」

「飲んだ?」 — 「うん、飲んだ。」

## 答T5-5

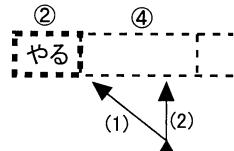
(1)「やらなかつた。」

行為がなかつたことを伝えます。

(2)「やつて(い)ない。」

行為がなかつたために結果がない

ことを伝えます。この問題では、発話意図として、結果があるべきであり、これから行為をする必要性があることを伝えています。



## 答T5-6

次のように、それぞれに例文が作れますので、当てはめられます。

(1)有時相表現 昨日は雨は降っていなかつた。(2)時のみ表現 おととい、その映画は見なかつた。(3)相のみ表現 彼は写真を撮ったとき笑っていない。（写真を見て）(4)無時相表現 彼はフランス語は話さない。

## 答T5-7

「5たす3イコール8。」は英語の言い方にならっています。

$$5 + 3 = 8$$

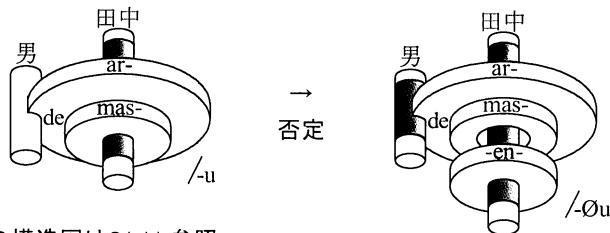
Five plus three equals eight.

「5たす3イコール8である。」は「5たす3イコール8。」では述語で文をとじる日本語としては不自然であると感じて、「である」を補って自然に感じられるようにしたものです。この点では「うなぎ文」と似ています(S1.10)。

## 答T5-8

「田中さんは男です。」(下左図)の文を否定すると

「田中さんは男ではありません。」(下右図)になります。



否定の構造図はS1.11 参照

この否定文は、田中さんが男であれば、現実と対応しませんから、うそ(偽)です。

この否定文は、田中さんが女であれば、現実と対応しますから、ほんとう(真)です。

否定がそのままうそ(偽)というわけではありません。